

# INTERVIEW

岩国市医療センター医師会病院 病院長  
茶川治樹先生



## 求められる場所で、 そこに必要な医療を提供する

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

### 保健所～離島での看取り～山間の病院～リハビリ医を経験して

山田隆司(聞き手) 今回、山口県の岩国市医療センター医師会病院に茶川治樹先生を訪ねました。今月号の「月刊地域医学」では、山口県立総合医療センター 地域医療支援センターの原田昌範先生を中心に山口県の地域医療支援について特集しています。そこでこれまで1期生として山口県をまとめてこられた茶川先生にインタビューに登場していただいております。そこでこれまで1期生として山口県をまとめてこられた茶川先生にインタビューに登場していただいております。

茶川治樹 ありがとうございます。

山田 まず先生のこれまでの経歴をお聞かせいただけますか。

茶川 私は自治医科大学山口県の1期生で、卒業後は2年間山口県立中央病院で研修し、3年目か

らはへき地の病院に出ました。2年後に県立病院に戻って後期研修をしました。その次にまたへき地に出るといふときに、保健所の医師も足りないということで、県から義務年限として保健所に勤務するように指示が出たので、保健所に行くことになりました。

保健所の仕事は結構面白く、またそのころ保健所に数年勤めて義務が明けると厚生省に行けるという道があったので、私もそのままずっと保健所にいて厚生省に行くことも考えていました。ところが保健所にいた2年目に、萩の見島という離島の医師が退職するので赴任してほしいと言われました。見島は萩から50km離れた人口2,000人くらいの島で、家族4人で2年間住み

ました。

見島で興味深かったのが終末期医療です。がんの末期の人も寝たきりの人も、みんな島に戻りたいというのですね。島には病院がないのでみんな家で過ごす。そうすると往診しなければならぬわけです。そういう人が何人もいて、自宅で看取るというような状況を否応なしに経験する中で、在宅医療や在宅の看取りに関心を持ちました。その2年の間に、厚生省に行こうという気持ちが薄れて、義務が明けても在宅医療をやるようなところで働きたいと思うようになっていたところに、岩国圏域の山間部にある町立美和病院(現 岩国市立美和病院)から声がかかりました。60床くらいの病院です。町長から、将来的に全員自治医大卒業生の病院としてモデル的にやってほしいと言われ、それならと赴任しました。当初は別の大学の先生もおられましたが、徐々に辞められて、県も積極的に医師を派遣してくれて、3年目くらいからは4名の医師が全員自治医大卒業生になりました。

**山田** 先生は院長を務められたのですね。

**茶川** はい。そこで在宅医療にも力を入れて取り組み、NHKや新聞にも取り上げられたりして、12年間で100人くらいを在宅で看取りました。このままここでへき地医療を全うしてもいいなと思っていたところに、45歳頃「保健所の医師が足りないからぜひ行政にきてほしい」と県から言われました。自分が保健所に行く条件として、今の病院から自治医大の卒業生の数が減らないということを県に約束してもらって、保健所に行きました。それが岩国保健所です。

岩国保健所の仕事も面白かったのでこのまま保健所長で定年を迎えてもいいかなと思っていました。保健所勤務6年目に、県と市が支援により、この医師会病院に4階建てのリハビリテーション専用の建物ができました。当時地域リハ

ビリテーション活動が全国的に盛んになっていましたが、岩国にはリハビリテーション病院がなかったのです。

**山田** この医師会病院に併設してリハビリテーション病棟ができたわけですね。

**茶川** そうです。ところが、当時当院には山口大学から医師が20人くらい派遣されていましたが、回復期リハビリ病棟50人の入院患者の主治医になる人が誰もいなくて、私はそのときは保健所長の立場で回復期リハビリ病棟を作ることに力を注いでいたのですが、出来上がった途端に医師がいない状況になってしまった。では私が保健所を辞めて医師会病院に勤めましょう、ということになったのが、今から15年前の話ですね。51歳のときです。

**山田** なるほど。

**茶川** それで一からリハビリの勉強をしながら、今やっと軌道にのって、40人程度のリハビリ入院患者に関わっています。当院の院長は元々山口大学の先生が順番にやっていたのですが、研修医マッチング制度の中で、山口大学からの医師派遣が減って、今は10人くらいになり、院長を引き受ける医師がいなくて、結局私がやっているわけです。

常勤医が20人から10人になったために急性期医療を縮小しましたが、回復期リハビリ病棟や地域包括ケア病棟を充実させたことにより、入院患者は以前と同じ150人が確保でき、また経費や人件費が減ったため逆に経営が良くなっています。

それで現在に至るといなのが、これまでの私の経歴です。

**山田** 先生は自分の意思ではなく、その時々状況に応じて求められたところへ行かれたわけで、自治医大卒業生の代表のようなご経歴ですね。